

「かかりつけ医」を持ちましょう

～ かかりつけ医は、あなたの健康のパートナー ～

日常的な診療や健康管理には、身近な「かかりつけ医」を受診しましょう。日頃から患者の体質や病歴、健康状態をくわしく把握し、健康管理のアドバイスなどもしてくれるだけでなく、対応が困難な場合には専門医を紹介してくれる、あなたの強い味方です。

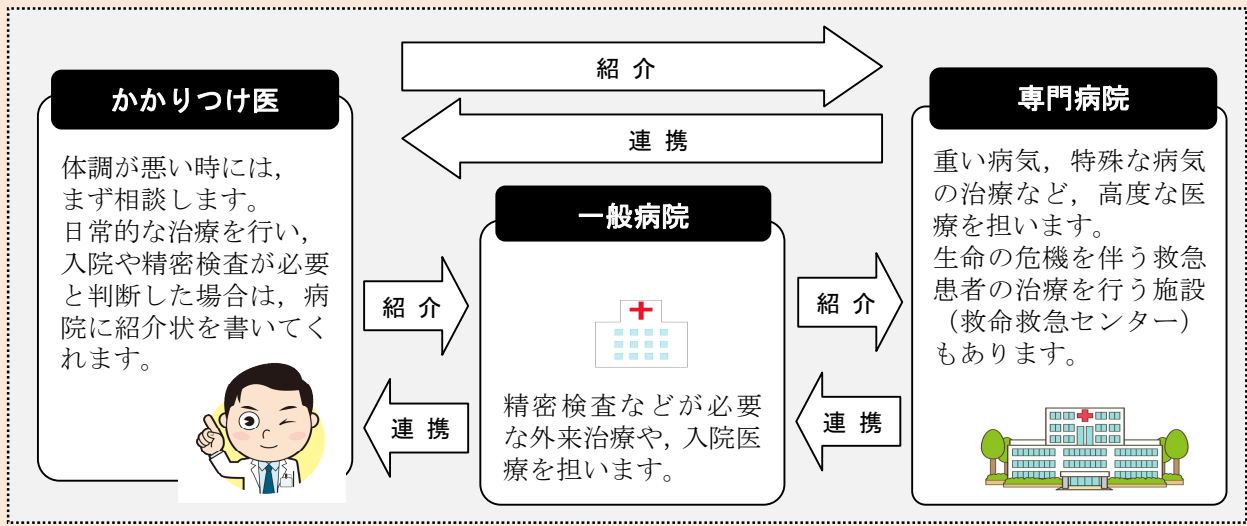


「かかりつけ医」とは？

- ◆ 「かかりつけ医」という言葉に法律上の定義などはありませんが、一般的には「体調が悪い時などにまず診てもらい、必要に応じて専門医を紹介してくれる医師」という意味で使われています。特に、住民に身近な診療所の開業医に、かかりつけ医としての役割が期待されています。

かかりつけ医と病院の連携体制

- ◆ かかりつけ医は、地域の病院（一般病院・専門病院）と連携して、患者に紹介状を書きます。また、病院での入院や精密検査を終えた患者を受け入れて、治療・相談を行います。この連携が適切に機能することにより、地域における医療の提供体制が整えられています。



かかりつけ医を探すには (一例)

- **いばらき医療機関情報ネット** <http://www.ibaraki-medinfo.jp/>

茨城 医療機関
↑
検索

茨城県では、県内の病院・診療所の情報を集めて、インターネットで提供しています。よくかかる医療機関を「かかりつけ医リスト」に登録することもできます。
- 大きな病院の「地域医療連携室」では、協力関係にある診療所の情報を提供しています。
- 集団健診や市民公開講座など、地域の中で医師と接する機会を積極的に利用しましょう。

医療機関の役割と「かかりつけ医」

なぜ「かかりつけ医」が求められるのか

- ◆ 常に診療や健康相談を受ける「かかりつけ医」には、患者の体の情報が蓄積されます。この情報が、病気の診断にあたって非常に重要になります。
- ◆ 大きな病院には専門医や高度な検査機器がそろっています。しかし、初診でそのような病院を受診しても、一番大事な「患者の情報」がありませんので、効果的な診断・治療が受けられるとは限りません。
- ◆ 「かかりつけ医」は、新たな病気についても、それまでの情報をもとに、個々の患者に適した診断・治療ができます。



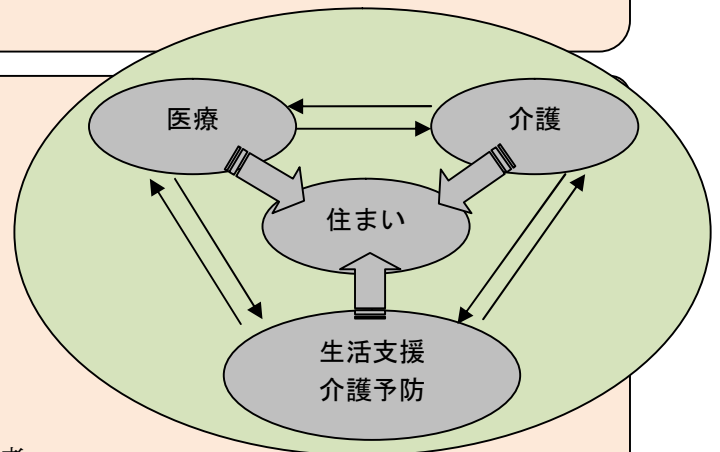
→ **(理由1) 患者が適切な医療を受け、健康を守るために有効だからです。**

- ◆ 医療機関は、日常の健康管理から高度な医療まで、それぞれ役割を分担しています。
- ◆ 患者がこの役割分担を無視して、日常の病気でも大きな病院での診療を求めれば、長い待ち時間、高度な医療の停滞、勤務医の疲労などの問題が起きます。
- ◆ 私たちは、医療を「限りある資源」と考えて、「本当に必要な医療を、必要な患者に届けるために」日頃から適正に利用することが大切です。
- ◆ しかし、そのような判断を、医療の素人である私たちがするのは難しいでしょう。そこで、まず「かかりつけ医」を受診し、助言を求めることが大変重要になります。

→ **(理由2) 医療機関の連携の要として、医療の質の維持・向上に必要だからです。**

これからの地域医療・介護と「かかりつけ医」

- ◆ 急速な高齢社会の到来に合わせ、国・県・市町村では、要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が地域のなかで一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。
- ◆ かかりつけ医には、訪問看護・訪問介護事業者などと連携し、在宅医療の中心的な役割が求められています。そのために、地域の医師も、認知症患者への対応などの能力向上に取り組んでいます。



地域包括ケアシステム イメージ

《お問い合わせ》 茨城県保健福祉部厚生総務課 医事・情報担当
TEL : 029-301-3124 FAX : 029-301-3139
Email : koso2@pref.ibaraki.lg.jp